



## 歩いて知った男性乳がんの患者会活動、日米比較

野口晃一郎 さん

男性乳がん患者、フリージャーナリスト

今日は限られた時間ですが、男性乳がん患者として歩んできた経験と、日米の患者会活動を通して感じたことを、皆さんと共有できればと思います。

### ■ 自己紹介

私はフリーライターとして、毎年10月のピンクリボン月間に合わせて、新聞の乳がん特集記事を担当しており、乳がんとの接点はあったのですが、まさか自分が当事者になるとは思ってもいませんでした。

2016年12月、私の左胸に違和感があり、乳首がちょっと陥没し、チクチクした痛みもあって、妻がその異変に気づいてくれたことがきっかけで、検査を受けると、男性乳がんと診断されました。乳がんの取材でご縁のあった先生に相談しそのまま主治医になっていただくことができました。

最初の診断はステージⅠでしたが、センチネル（見張り）リンパ節への転移が確認され、最終的にはステージⅡAとなりました。現在は治療9年目となりますが、タモキシフェンというホルモン剤を服用しており、毎年マンモグラフィー検査を受けながら、再発や転移もなく経過している状況です。

### ■ MBCHとの出会い

当時、男性乳がんに関する情報は非常に少なく、検索してもほとんど記事が見つからない時代でした。そんな中、英語に関わる仕事をしていた妻が見つけたのが、米国の男性乳がん患者会「Male Breast Cancer Happens（現在名）」でした。

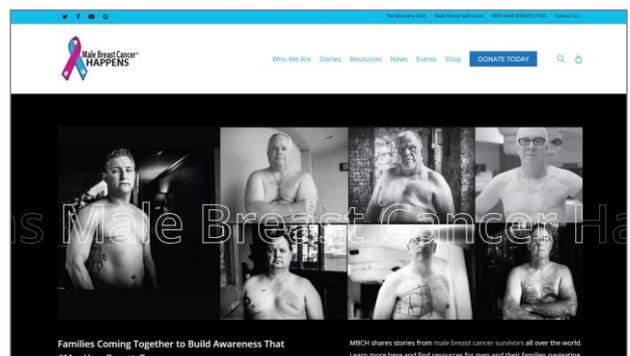
手術からわずか2か月後、私は思い切って渡米し、初めてこの患者会の集まりに参加しました。男性が裸になって行動するアメリカらしいパフォーマンスに最初はちょっと驚きましたが、思い切って飛び込んでみました。



こうしたサバイバー同士のお付き合いで、何より心に残ったのは「自分は一人ではない」と実感できたことでした。ほとんど情報もなく、不安の中で孤立していた私にとって、同じ経験をした仲間と出会い、直接言葉を交わせたことは、大きな安心につながりました。患者の思いや苦しみは、やはり患者同士でしか分かち合えない部分があると強く感じました。

この頃、日本でもキャンサーネットジャパンさんの支援で「メンズBC」という男性乳がん患者の集まりが始まっており、このような会の必要性を感じると共に、このようなレアながんにも、もっと正しい情報が欲しい、同じ仲間の体験をもっと多く知りたいと思っていました。

### ■ MBCHとは



ここに行けば仲間に出える！という安心感に惹かれ、その後、毎年MBCHに足を運ぶようになりました。

MBCHの使命はこのようになっています。

- ・男性乳がんの正しい認識を広げる
- ・患者とその家族を支援する
- ・医療コミュニティにも男性乳がんへの対応を促す

そして、啓発・教育、サポート（体験談の紹介も）、研究・医療連携、イベント・会議など様々な活動を行っています。

### ■ MBCHのカンファレンスに参加

日本と比べて感じる大きな違いは、アメリカでは患者がとてもオープンで、家族ぐるみで参加している方が多い点です。サバイバー・家族・医療者がつながる場の重要性が強調され、子どもたちがいきなりステージに上がるシーンで会場がなごみ、ご夫婦で登壇するセッションもあり、会場はまるで同窓会やホームパーティーのよう。明るく前向きな雰囲気の中で、「誰も孤立させない」というメッセージが自然に参加者全員に共有されていました。



このカンファレンスでは20近いプレゼンテーションが行われましたが、私も読売テレビの番組に出た時のビデオを紹介しながら、日本の男性乳がんの現状や活動を紹介しました。



言葉の壁はありましたが、妻のサポートも受けつつ、同じ患者仲間として語ることで、多くの共感を得られたと感じています。

### ■ カンファレンスに参加して見えてきたこと

MBCHの活動は、サバイバー中心が信条となっており、夫婦のみならず子供も登場し、海外からの参加も受け入れてくれ、なにより家族支援を含めたサポートが充実している印象がありました。

研究や医療との連携、心理社会的サポートにも力を入れており、医師や研究者、運動指導の専門家、他のがん患者団体など、多様な立場の人が関わり、男性乳がんという希少がんを多角的に支えています。また、体験談が豊富に共有されていることも、患者にとって大きな支えとなっています。

### ■ 結びに

男性乳がんは患者数が少なく、どうしても不安や孤立を感じやすい病気です。だからこそ、来るものは拒まずという受け入れ姿勢があり、ホストファミリーに帰るような気持ちです。このような「居場所」があり、同じ経験をした仲間が迎えてくれることは、私にとって心の安定につながり、大きな支えとなっています。



アメリカで感じた支援の力を、日本のメンズBCの活動にも生かし、キャンサーネットジャパンさんの支援も得ながら、少しずつ輪を広げていけたらと思っています。本日の話が、誰かが声を上げるきっかけとなり、新たな出会いや連帯へとつながるなら、これ以上の喜びはありません。

（要約：片岡義順）